

<ご意見の原文>

ご意見及びその理由		検討結果等の 一覧対応No.
1	<p>■基本目標</p> <p>素案では「歴史遺産や伝統文化」が目標となっており、日本語として適切でない。</p> <p>目標はこの場合、「知り、守り伝え、活かす」ことなので、倒置形にしたいのであれば、「知り、守り伝え、活かそう 飛騨高山の～」にしたほうがよい。</p>	1
2	<p>1 城下町の町人文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋台組を基礎としたコミュニティ <p>→コミュニティの基礎になっているのは「町組」である。したがって、屋台組を町組に置き換えるのが適切である。</p>	2
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「今に生きる町人文化」は、城下町時代というよりは江戸中後期の高山町に淵源をもつのではないか。対象として想定されている町並みや祭屋台などは、まさに江戸後期以降（一部は近代以降）に形成されてきた文化の所産なのではないか？ ・「城下町高山の町人文化」とは何を指し示すのだろうか？元禄8年に高山城は破却されており、それ以降の高山町を「城下町」と規定することは学術的にも正しくないのではないか。現に、伝建地区の種別が高山は城下町にされておらず「商家町」となっている。 ・「城下町」にこだわる理由は何か？例えば、「城下町高山」を「近世高山町」に置き換えてはどうだろうか？ 	3
4	<p>3 飛騨国誕生の物語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このタイトルにすると、飛騨国立国（りっこく）の過程が対象となっているかのような誤解を与えるのではないか？ <p>→代替案「古代飛騨を物語る遺跡と国の成り立ち」</p>	4

ご意見及びその理由		検討結果等の 一覧対応No.
5	<p>5 中世の山城</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高山城は近世城郭であり、かつ山城ではないので、高山城跡を構成文化財とする場合、「中世の山城」と副題に銘打つのは適切でない。 <p>→代替案「中近世の城館」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領主の拠点について取り上げる場合、戦時の拠点となる山城のみを検討するのでは不十分であり、平時の拠点となった山麓の居館などの生活空間についても明らかにしていく必要がある。現状では史跡として山城が注目され、国史跡指定をめざす取り組みも進んでいるが、いずれは山麓など平地に位置する領主居館の調査研究も進めて頂きたい、その点を鑑みても「中世の山城」より「中近世の城館」のほうが妥当だと考える。 	5
6	<ul style="list-style-type: none"> ・関連文化財群全体としては、日本遺産のストーリーも取り込み、歴史文化基本構想の関連文化財群よりも対象とする文化財について地域的にも広がりを見せている点については評価したい。 ・8つのストーリーのうち5つで「山」の付く言葉がキーワードになっている。相互の内容的な重複はあっても仕方ないが、印象としては「山」関連が多いかなと感じる。 	6
7	<ul style="list-style-type: none"> ・1と8は祭礼という点で重複がある。従前の歴史文化基本構想では、町場の文化が農村部に伝播するというストーリーが設定されていたが、文化传播の方向性は一方向ではないし、高山の町家建築のルーツは農村部にあるとの見解もある。つまり、高山祭の屋台行列の淵源についても同様の指摘がある。 ・難しいかもしれないが、歴史文化基本構想の時に示されたようなストーリー間の関係性が図示されると理解しやすくなるのではないか。 	7